

さんさん山城 ノウフク アワード

グランプリ 府庁へ初表敬

京田辺市 地域の核 農福連携センター

京田辺市にある障害者就労支援事業所で農福連携センターの「さんさん山城」(新免修

施設長、藤永実センター長)と興戸小毛詰は京都府庁を訪れ、中央省庁などからなる農

福連携等応援コンソーシアム主催「ノウフク・アワード」グランプリ受賞を報告した。

利用者6人と職員4人の合計10人が今年13日、表彰訪問し、聴覚障害がある利用者も手話で歓談を弾ませた。

2011年開所のさんさん山城では、聴覚をはじめ身体、知的障害がある利用者らが、少子高齢化が進む中、担い手不足の農業と障害者福祉の充実を目指す双方を結ぶノウフク(農福)連携の先駆けとなり活動を展開している。

地元選出の古林良崇府議案内のもと、府健康福祉部長できょうと農福連携センター長の長谷川学部長と、いづれも副部長で副センター長の小瀬康行・柴田浩継の2氏を合わせて3人らと対面。手話を交え一人ひとりが自己紹介し、交歓を深めた。

利用者らは「コミュニティカフェに

来客が多く、やりがいがある「おいしい、と手話で言ってもらえるのがうれしい」などと日ごろの感想を述べた。最高位受賞を報告

し、東京都内で行われた表彰式で堂々とプレゼンテーションしてみせた植原優さんと田中容子さんの2人が式の様子を分かりやすく伝えた。

話題はノウフク・アワードに止まらず、メンバーでプラトライアスリートの中田鈴子さんが思いを綴った手紙を披露し、障害者スポーツなどのテーマにも互いに目を向け合った。

長谷川部長らは受賞をたたえ「手話でスピーチされた例はあまりない。感銘を受けた」「楽しみながら取り組まれている様子が分かる」「これからも元気に頑張ってもらいたい」などとエールを送った。

2017年5月、きょうと農福連携センター設立の際には、コミュニティカフェを立ち上げる前、さんさん山城が式典用にランチボックス

150食分を用意し、花を添えたエピソードも。ワンコインランチが好評なコミュニティカフェは、茶摘みのためにしばらく休業中。再開は31日(火)。問い合わせは同施設 0774-39-7113まで。【写真】長谷川府健康福祉部長らにノウフク・アワードグランプリを報告したさんさん山城の利用者・職員たち】



2011年開所のさんさん山城では、聴覚をはじめ身体、知的障害がある利用者らが、少子高齢化が進む中、担い手不足の農業と障害者福祉の充実を目指す双方を結ぶノウフク(農福)連携の先駆けとなり活動を展開している。

地元選出の古林良崇府議案内のもと、府健康福祉部長できょうと農福連携センター長の長谷川学部長と、いづれも副部長で副センター長の小瀬康行・柴田浩継の2氏を合わせて3人らと対面。手話を交え一人ひとりが自己紹介し、交歓を深めた。

利用者らは「コミュニティカフェに

来客が多く、やりがいがある「おいしい、と手話で言ってもらえるのがうれしい」などと日ごろの感想を述べた。最高位受賞を報告

し、東京都内で行われた表彰式で堂々とプレゼンテーションしてみせた植原優さんと田中容子さんの2人が式の様子を分かりやすく伝えた。

話題はノウフク・アワードに止まらず、メンバーでプラトライアスリートの中田鈴子さんが思いを綴った手紙を披露し、障害者スポーツなどのテーマにも互いに目を向け合った。

長谷川部長らは受賞をたたえ「手話でスピーチされた例はあまりない。感銘を受けた」「楽しみながら取り組まれている様子が分かる」「これからも元気に頑張ってもらいたい」などとエールを送った。

ドリブルで球と仲良し

宇治田原町立保育所 年中〜年長児対象のサッカー教室が開講中



宇治田原町立保育所 年中〜年長児対象のサッカー教室が開講中

園児たちが歓声を上げて、夢中になってボールを追いかけた。

子供のスポーツ離れが問題となる中、幼い時期から球技に親しんでもらえるよう、6年前に始まった取り組み。一昨年度からは、町の「体づくりで茶レンジャー事業」として展開している。

指導に当たっているのは、宇治田原町スポーツ少年団代表の垣内登志樹さん。この日の教室は、年長児たちを対象に2部制で行い、ボールタッチの準備運動から始めた。ドリブルの練習で、垣内さんは「足を速く動かしてみよう。ボール